学校評価

＜報告＞

令和元年度　総括

令和２年度　目標・計画

松江西高等学校

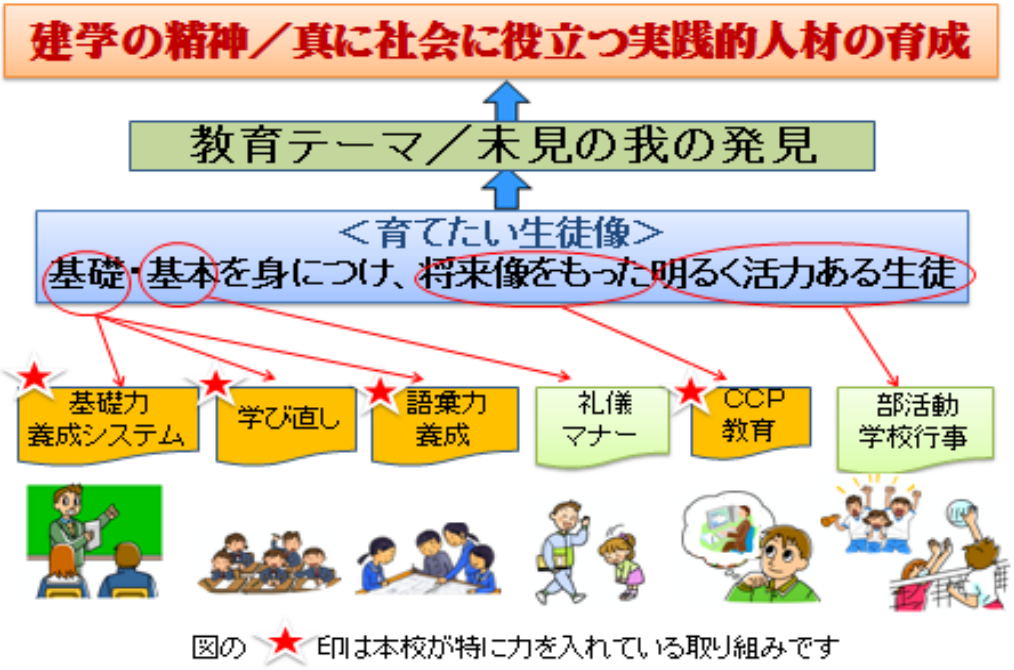
目次

目次　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
令和元年度＜総括＞　・・・・・・・・・・・・2～17

学校評価（重点課題・主眼を置いた取組・継続課題）・・　3～ 7
分掌部評価（年間目標の点検・評価）・・・・・・・・・・　8～11
担任評価（担任振返シートによる点検・評価）・・・・・12～14
生徒評価（評価シートによる点検・評価）・・・・・・・15～17

令和元年度＜目標・計画＞・・・・・・・・・18～31

学校評価（重点課題・徹底したい取り組み等）・・・・・19～22
分掌部評価（年間目標・計画）・・・・・・・・・・・・・23～26
担任評価（クラス努力目標・振返シート）・・・・・・・27～30
生徒評価（チェックシート）・・・・・・・・・・・・・・31



図の ★ 印は本校が特に力を入れている取り組みです

令和元年度

松江西高等学校

自己点検・自己評価（ＰＤＣＡ）

＜目標・計画＞

- 学校評価（重点課題・主眼を置いた取り組み等）
- 分掌部評価（分掌部評価表）
- 学級評価（担任振返シート）
- 生徒自己評価（生徒指導部）

令和元年度　松江西高等学校　学校評価

＜重要課題＞

PLAN		DO	CHECK	ACTION
重点目標	重点項目	具体的な取り組み	達成度判定基準	分析（成果と課題）及び改善策
どんな学校にしたいか？	アドミッションポリシー ～どんな生徒を望むか～ ①義務教育を終えてなお高校へ進学する決意が、自分の言葉で話せる生徒 ②本校の教育テーマである「未見の我の発見」に向けて挑戦する生徒	①、②については入試説明会、中学校訪問等で伝える。特に①については専願生の面接項目に入れる。	A　Ⓑ　C　D	専願生の面接項目において重要視していることが、徐々に浸透してきている実感がある。特に学び直しと部活動に励みたい生徒が多かった。今後も目的意識をもった生徒の勧誘に努めたい。（校長）
	カリキュラムポリシー ～どんなカリキュラムマネージメントをするか～ まず、学び直しをして、基礎学力の定着を図り、就職・進学に必要な学力を身につけさせる	学び直し、基礎力診断、ＳＰＩ、スタディサプリ等の手段を施し、目的である就職・進学に必要な学力を身につけさせる。	A　Ⓑ　C　D	１年生は学び直し、２年生までは基礎力診断テスト、３年生就職希望者はＳＰＩ、進学希望者はスタディサプリとそれぞれツールを駆使して自己実現に向けて実施できた。（校長）
	ディプロマポリシー ～どんな生徒を育てたいのか～ 育てたい生徒像である「基礎・基本を身につけ、将来像をもった明るく活力ある生徒」を育て、将来は建学の精神である「真に社会に役立つ実践的人材の育成」につなげる	学期ごとに、アンケートを実施し、事あるごとに意識づけを行う。	A　Ⓑ　C　D	将来、社会人として必要な資質が「育てたい生徒像」にあると確信している。アンケート調査では 5 段階で 3.5 付近であった。4 以上を目指したい。（校長）
	④カリキュラムを含めた学科・コースの見直し	目の前にいる生徒に即した魅力あるカリキュラム・学科・コースを構築する。	A　B　Ⓒ　D	関係の先生方とはカリキュラム・学科・コースの見直しについて大枠のフレームは討議できた。次年度は具体策を示したい。（校長）

＜主眼を置いた取り組み＞

PLAN			DO	CHECK	ACTION
重点目標	重点項目		具体的な取り組み	達成度判定基準	分析（成果と課題）及び改善策
育てたい生徒像／基礎・基本を身につけ将来像をもった明るく活力ある生徒	基礎学力養成	高校生のための「学びの基礎診断」	年間１回（９月）実施することになった。本校にとって大きな指標にしたい。	A　B　Ⓒ　D	従来の基礎力診断テスト（マーク式）に加え、記述式とスピーキングテストを行った。知識・技能はどの教科も５０％の得点率なのに対して、思考力判断力は数学と英語で３０％を切る結果となった。特に英語の記述は得点率１０％であった。（松浦）
		基礎力養成対策	Ａ～Ｄ層のうちＤ層の減少を目標とする	A　B　Ⓒ　D	国語数学英語の３教科では、１年生は６％減、２年生は８％減と大幅な減少はできなかった。教科別にみると国語、英語は微減だったが、数学は３２％減と大幅に減らすことができた。（松浦）
		学び直し	ベネッセ教材を活用し、中学校時の積み残しを学び直し、高校教育課程へつなげる。	A　B　Ⓒ　D	認定テスト取得率（2018→2019 年度）国語　50.0%→66.4%　数学　22.8%→21.9%　英語　37.0%→36.0%　国語は取得率を上げられたが、数学と英語は微減となった。（松浦）
		語彙力養成（Literas 論理言語力検定）	本校の生徒に合った題材を準備し、楽しく語彙力が身に付くように工夫し、Literas 論理言語力検定の合格者を増やす。	A　B　Ⓒ　D	今年度から Literas として新しい検定となったので、昨年度比較はできないが、３級合格率が 37.9%(全国 77.4%)、準３級合格率が 13.8%(全国 7.7%)となった。（松浦）

	新しい授業のかたち	アクティブラーニング等による「生徒参加型授業」の取り組み	「知識・技能」の習得からその活用へ重点をシフトし、生徒を主体とする授業の形成に努める。	A Ⓑ C D	アクティブラーニングへの理解は高まっていると感じる。生徒がアクティブになるやり方やアイデアを共有し、先生方へのハードルが高くならないようにしたい。（和田）
	ＩＣＴ等の活用	基礎学力基盤養成	ベネッセのクラッシー学習サポート（動画学習）の活用による基礎学力の定着に努める。	A B Ⓒ D	D3 が 2 年生は 1 割減と昨年並みだったが、1 年生はほとんど減らなかった。（和田）
		進学するための学力養成	リクルートのスタディーサプリの活用による実力養成に努める。	A Ⓑ C D	特に 1 年生で活用スタイルを確立できた。週末課題だけでなく、学習シートを作成することで、自主的な学習に近づいた。（和田）
		就職するための学力養成	ＳＰＩの活用による就職試験に合格できる学力の養成に努める。	A Ⓑ C D	昨年度同様、２、３年生の１～４組を対象に数学の時間を利用して SPI の非言語分野に取り組んだ。就職試験で SPI が課されていたか否かは別として、全員が非言語分野の全範囲を網羅することができた。（松浦）
	検定その他	朝読書の推進	8:30～8:40 朝読書（月、金）を実施する。	A B Ⓒ D	朝読書は実施していない。秋の読書週間には全校一斉の読み聞かせを 2 回実施した。（柏尾）
		校内漢字テスト	年６回の漢字テスト、３回の漢字検定を実施する。	A Ⓑ C D	年 6 回の校内漢字テストの実施が、漢字検定合格に結び付くよう指導をしたい。（小澤）
		各種検定資格取得	＜総合ビジネス科＞ 簿記、情報、ワープロ、電卓、介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー２級）等の資格取得に努める。	Ⓐ B C D	昨年度→今年度比較（上級） **全商簿記** 簿記 1 級 1 名→3 名 （原価計算）1 級 5 名→5 名 簿記 1 級 0 名→8 名 2 級 8 名→9 名 3 級 25 名→27 名 **全商電卓**（普通計算）1 級 27 名→25 名 電卓 2 級 16 名→31 名 （普通計算）2 級 34 名→33 名 （ビジネス）２級 1 名→5 名 **全商ビジネス文書** 1 級 1 名→6 名 （文書部門）1 級 1 名→6 名 （速度部門）1 級 1 名→12 名 ビジネス文書２級 18 名→17 名 （文書部門）2 級 13 名→10 名 （速度部門）2 級 5 名→20 名 **全商情報処理** 1 級 2 名→3 名 ２級 8 名→4 名 **商業経済検定** 1 級 4 名→4 名 2 級 4 名→6 名 3 級 9 名→13 名 **介護職員初任者研修** 12 名→16 名 （加納）
			＜普通科＞ 漢検・英検・日本語検定・語彙力検定等の資格取得に努める。	A Ⓑ C D	**日検ワープロ検定** 2 級受験無 準２級 0 名→0 名 ３級 8 名→14 名 **日検情報処理検定** 2 級受験無 準２級 1 名→3 名 ３級 43 名→11 名 （加納） **全商英検** １級 0 名→1 名 ２級 1 名→0 名 ３級 7 名→7 名 **実用英検** 準会場としての人数が足らず、受験できなかった。（柏尾） **漢字検定** ２級 0 名→1 名 準２級 0 名→7 名 ３級 3 名→18 名 ４級 0 名→0 名 （田中）

					論理言語力検定（全 1，2 年生が受験） 総受験者数 240 名 3 級合格者 91 名 準 3 級合格者 33 名 （広瀬） **日本語検定**　語彙力検定と重なるため実施せず（日野）
	基本的生活習慣と生徒指導	社会性の育成	社会規範を示し、将来社会人として自立するための基本を身につけさせる。校内外パトロールを通して本校生徒の実態を把握し、正しい方向に導く。	A　Ⓑ　C　D	登校指導、校内パトロール、下校時の指導を実施した。（原田）
		服装・頭髪	月１回全校一斉検査を実施し、改善まで徹底指導する。	A　Ⓑ　C　D	毎学期の始業式で全校一斉検査を実施、各学年部でも不定期で実施。 （原田）
		挨拶	全職員による日頃の地道な指導が大切。	A　B　Ⓒ　D	全校的な取り組みはできなかった。 （原田）
		マナー	根負けしない教職員の指導が大切。	A　Ⓑ　C　D	外部からの自転車のマナーについての苦情は前年度より件数は減少した。 （原田）
		いじめ問題	いじめは未然防止に尽きる。日頃からの全職員による観察が肝要である。いじめは絶対許さない姿勢を日々示す。	A　Ⓑ　C　D	毎学期のアンケートにより、早期発見と把握に努めた。（原田）
	将来像	ＣＣＰ教育（キャリア教育）	ＣＣＰ教育を基盤とし、将来像を描ける生徒になるよう、キャリア教育に努める。	A　Ⓑ　C　D	＜１年＞ 3 学期の新型コロナウイルスの影響以外は、ほぼ予定通り 7 回実施できた。CCP の概念が希薄だった。（柏尾）
				A　B　Ⓒ　D	＜２年＞ 研修旅行と検定学習を実施したが結果を含めて今一つの評価だと感じた。 （杉田）
				A　Ⓑ　C　D	＜３年＞ 回数は少なかったが、ほぼ予定通り実施できた。生徒の意識も定着できたと思う。（日野）
		進路ガイダンス	進学に関するガイダンス	Ⓐ　B　C　D	〈進学〉 6 月／進学ガイダンス（３年） 9 月／進学ガイダンス（３年） 12 月／進学ガイダンス（1.2 年） 上半期には 3 年生を対象として、下半期には、1.2 年生を対象に行った。また進学希望者の不安を取り除くためマネープランを数回実施した。（加藤）
			就職に関するガイダンス	Ⓐ　B　C　D	＜職業指導＞ 6 月／進路ガイダンス（３年） 7 月／高校生ジョブフェア(3 年) 7 月／就職ガイダンス(3 年) 9 月／就職出発式(3 年) 2 月／就職内定者研修（3 年） 就職試験前に 3 回、内定後に 1 回のガイダンスにより内定率・定着率の向上に努めた。（加藤）
		職場見学、職場体験等の活用による離職対策	安易な職業選択による離職率は増加の傾向にある。職場見学、職場実習の機会を増やすなど、離職率減少対策に努める。	A　Ⓑ　C　D	２年生よりガイダンスの回数を増やし、地元の企業を知る機会や就業に向けての意識付けを早めるようにした。次年度よりインターンシップを実施することで、より効果を高めたい。(加藤)

	明るく活力	行事を大切にする	師弟が結束して行事に取り組み、行事を通してクラス、学年の帰属意識を高める。	A Ⓑ C D	学年内での「報連相」は密になってきている。学年として共通意識をもって取り組んでおり、昨年度よりかなり向上した。（安達教頭）
		部活動に入る／入部率向上	入部率７０％をめざす。	A B Ⓒ D	加入率は若干低下している。既存の部活動がより生徒の成長に寄与し、魅力ある部活動になること。また、文化系の部活動の充実策を検討していきたい。（安達教頭）
		特待生の積極的な勧誘で学校活性化に努める。	部活動をけん引する特待生の確保に専念する。（目標３０名）	A Ⓑ C D	目標数の達成には至らなかったものの、人数は昨年度より 1 割増加の上、構成が変化した。校長推薦が 3 割増加したことが評価できる。実績を作ることはもちろん、継続した取り組みで、内外共に信頼を得る集団となるよう期待したい。（安達教頭）

＜継続して取り組む課題＞

PLAN			DO	CHECK	ACTION
重点目標	重点項目		具体的な取り組み	達成度判定基準	分析（成果と課題）及び改善策
①生徒数の確保	入学生定員１７６名確保		本校の取り組み・魅力を積極的にＰＲ。中学校訪問回数を増やす。	A Ⓑ C D	入学生１７４名。体験入学、中学生保護者対象説明会の参加人数が増え、入学生の増に繋がった。（松浦）
	志願者数７００名		多様化する生徒に対応した本校の受験型と特待制度の浸透に努める。	A Ⓑ C D	志願者総数 628 名。昨年度同様 12 月入試を取りやめ、1 月に統一した。今年度は雲南地区の受験希望が多く、別会場を追加で準備した。（松浦）
	マスコミ・メディアの活用		本校の行事等をマスコミに積極的に報道依頼する。	A B Ⓒ D	体験入学等でのマスコミへの依頼ができなかった。主権者教育を通じて島根大学と連携し、新聞に取り上げていただくことができた。（松浦）
	効果的なイベント		本校に興味・関心が向くようなイベントを工夫する。	A Ⓑ C D	現行の体験入学、中学生保護者対象説明会は参加人数が増えてきている。中学生の要望として出てきている、部活動の見学や参加も新たに考えていきたい。（松浦）
	入試の改善		改善すべき点、新しく導入すべき点等を検討する。	A B Ⓒ D	推薦入試については、昨年度と大きく変わっていない。一般入試については、本校が担当し３校と調整してきた。中学校から出てきている改善点を、各校各教科で共有して改善していきたい。（松浦）
	塾対応		塾への訪問回数を増やし、本校の PR に努める。	A B Ⓒ D	依頼のあった塾に対しては、過去問題とポスターを配布している。今後必要に応じて訪問する機会を増やし、受験者数の増に繋げていきたい。（松浦）
②生徒数の維持	退学１０名、転出１０名、計２０名までに留める		日頃の出欠状況に注視し、安易な退学、転出の予防に努める。	A B Ⓒ D	今年度は 13 名の退学、12 名の転出が出た。昨年度より 1 名減だったが、20 名以下を目指したい。（校長）
③その他	支援生徒への対応	不登校の問題	中学校、支援組織等からの情報を収集し、保護者との協力のもと不登校の改善に努める。	A Ⓑ C D	担任より相談があった不登校生徒に対して、学習室を提供し 13 名の利用があった。また、今年度より学習室において各教科週 2 時間の授業を行うことができた。（原）

		特別支援生徒	実態をまず把握し、中学校、支援団体等からの助言を得ながら、連携して合理的配慮に努める。	A Ⓑ C D	中学校からの生徒情報を 4 月の職員会議において、全教職員に共通理解を図った。また、配慮が必要な生徒については、校内委員会（特別支援会議）において、該当生徒について話し合い、適切な配慮と必要な支援を行った。（原）
		外国籍生徒学習支援	同時通訳機や日本語指導員等を活用し、言葉の壁を軽減したい。学習評価も合理的配慮が必要な場合はその都度検討する。	A Ⓑ C D	1 年生 3 名、2 年生 2 名、3 年生 2 名在籍。毎週金曜日の日本語教室の実施や翻訳機の活用、通訳の派遣などの支援（昨年度より継続）。全員が卒業ないし進級を果たした。日本語能力試験にも昨年度同様Ｎ３に１名が合格した。（広瀬）
		合理的配慮	保護者、担任等からの申し出を受け、その都度検討し生徒の困り感を軽減する。	A B Ⓒ D	本人や保護者から１件、考査の問題の読み上げの要望があった。担任を中心に実施した。（原）
	地方創生	ふるさと教育の実践	ふるさとを知り、ふるさとを愛する人材の育成に努める。	A Ⓑ C D	地域企業の情報については、本校主催の企業ガイダンスや自治体主催の説明会等で十分知ることができた。今年度も天神みこしに生徒会が参加し、地域の文化活動に触れる貴重な体験をすることができた。卒業生の約 7 割が地元に残る強みを今後もアッピールしていきたい。（校長）
		地域に貢献する人材の育成	地域に根差し、地域を支える人材の育成に努める。	A Ⓑ C D	島大と連携して進めている「西高マニフェスト」等の取り組みが、マスコミに報道されることで、生徒にとって大きな自信になった。（校長）
		自治会等の連携活動	自治会との連携を密にし、お互いに助け合う関係を築きたい。	A B C Ⓓ	地域の祭りごとやレクレーション等で本校の施設をお貸しする以外は、取り出して貢献できることはなかった。来年度は、自治会の要望等を聞く機会を持ちたい。（校長）
	学校評価の推進と学校運営の改善	学校評価	学校の年間重点目標と戦略をＰＤＣＡを通して、全体評価する。	A Ⓑ C D	生徒のより良い教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善、発展を目指したい。（客野教頭）
		分掌部評価表	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A Ⓑ C D	より効率的な学校運営と確実な業務遂行につなげたい。（客野教頭）
		担任振返りシート	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A Ⓑ C D	1 年間のクラスの生徒との関わりで、今後も指導を継続させたい内容などを明らかにし、次の学年につなげたい。（客野教頭）
		クラス努力目標	努力目標をクラスに掲示し、振返りシートで反省、改善に努める。	A Ⓑ C D	折に触れ、自分たちの言動について、振り返るものとしていきたい。（客野教頭）
		生徒自己点検	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A B Ⓒ D	相変わらず評価の低い項目については、教員側の指導方法を見直していく必要がある。（客野教頭）
		シラバス学習指導計画	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	Ⓐ B C D	様式を年間 2 枚に変更し、見やすくわかりやすくなった。（坂田）
		授業評価	Classi によるアンケート調査を実施する。	A Ⓑ C D	未回答の生徒を減らし、有効活用に努めたい。（坂田）

＜集計＞

評価項目（５１）	Ａ／４	Ｂ／３０	Ｃ／１６	Ｄ／１

令和元年度　松江西高等学校分掌部年間目標と計画

１．教育理念

（１）本校の使命（ミッション）

建学の精神である「真に社会に役立つ実践的人材の育成」を使命とする。基礎・基本を身につけ、人格の形成に主眼を置いた教育実践を通して、地域に根差し、地域の期待に応える学校づくりを推進する。

（２）使命の追求を通して実現しようとする本校の生徒像（ビジョン）

本校の育てたい生徒像である「基礎・基本を身につけ、将来像を持った明るく活力ある生徒」具現化のための重要ポイント

１．基礎力養成補習、学び直し、語彙力養成を通して基礎学力を養成させる
２．平素の学校生活を通して正しい服装と礼儀・挨拶を習得させる
３．ＣＣＰ教育、インターンシップを通して将来像を持たせる
４．部活動、学校行事を通して明るさと活力を身につけさせる

２．分掌部年間目標・計画・評価　　評価　１　よくできなかった／　２　まずまずだった／　３　大変よくできた

分掌	年間重点目標		当担	目標達成のための計画	評価（1学期）	評価（2学期）	評価（3学期）	評価（学年）
総務部	①受験者数・入学者数の確保	①体験入学参加者 300 名の確保（昨年 193 名）	入試課	・松江西高タイムス・学校案内発行 ・学校紹介ビデオ・パワーポイント作成 ・体験入学の実施 ・中学校における進路説明会実施 ・中学校教員対象入試説明会実施 ・中学生・保護者対象入試説明会の実施	2			2
		②中学生・保護者対象入試説明会参加者 450 名の確保（昨年 387 名）				3		3
		③受験者数 700 名の確保（昨年 615 名）					3	3
		④入学者 176 名の確保（昨年 143 名）					3	3
	②円滑な学校運営		総務課	・年間行事計画作成・調整 ・職員会議企画・運営、会議録の作成・資料保管 ・学校要覧、職員名簿・緊急連絡網・身分証明書等の作成 ・100 周年資料の収集・整理・保管	2	2	2	2
			式典課	入学式、卒業式、始・終業式等の企画・実施	3	3	3	3
			総務課	入学試験の企画・実施、入試関係事務処理	2	2	3	2
			入試課	専願合格者入学前指導、新入生一日入学企画・実施			2	2
			厚生課	・各種育英資金募集についての連絡・相談 ・学校生協関係の連絡・事務 ・慶弔に関する庶務	2	2	2	2
	③施設設備の管理・保全		施設課	・校舎・施設、机・椅子等の破損調査整備 ・校舎内外の環境整備・美化	2	2	2	2
	④防災体制の確立		総務課 施設課	・防災組織の整備、研修・訓練の実施と検証 ・防災教育の企画・実施 ・緊急時一斉メール配信システムの整備・管理 ・防災設備の点検・整備	2	2	2	2
	⑤学校広報の推進		施設課	・西高だより（年２回）・「がんばれ西高！」（随時）発行 ・学校ホームページ更新	2	2	2	2
教務部	①授業の管理（自習時間の削減）		教務課	・授業変更は原則１日４時間以内で、同一クラス同一教科が無いようにするが、できない場合は自習とし、学年部等に依頼する。	3	3	2	3
	②授業時数の確保			・時間短縮等で学校行事等とのバランスをとる。	3	3	3	3
	③基礎学力の向上に努める			・補習の計画に取り組む。 ・基礎学力向上の計画を策定する。	2	2	2	2
	④新課程への対応			・新カリキュラム作成	2	2	2	2

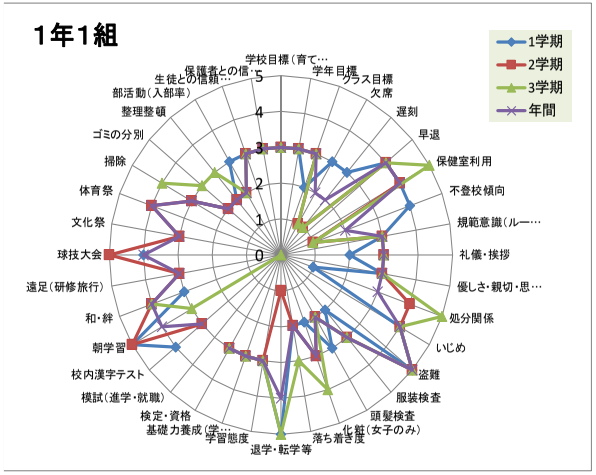
	⑤基礎学力の向上に努める	学習指導課	・進学指導部とタイアップしてＤ３の減少を図るとともに､全体のレベルアップに努める。	2	2	2	2
	⑥朝学習の活用		・朝の語彙力養成の定着に努める。	2	2	2	2
	⑦公開授業を行うと共に、授業改善課と連携	研修課	・教科主任と協議してベテラン・中堅・若手の数、教科のバランスを考慮する。	3	3	3	3
	⑧読書週間（読み聞かせ）の活用	図書課	・速読技術ＣＤの活用 ・朝学習用の冊子貸し出し（20 冊ずつ） ・月１回新刊紹介（広報活動） ・教員による読んでほしい本紹介	2	2	2	2
	⑨授業の工夫	授業改善課	・機器の利用等	2	2	2	2
	⑩アクティブラーニング		・研修会の実施	2	2	2	2
保健部	①環境美化の推進	保健課	・ゴミ分別の円滑化 ・清掃活動	2	2	2	2
	②健康管理の徹底		・生活改善(朝食・睡眠・スマホ)に向けた指導の充実を図る。 ・健康観察等からの情報収集により身体、心の問題の早期発見、早期対応を図る。	3	3	3	3
	③各諸問題に関わる研修		・時代に対応した各種研修を実施。	3	1	1	3
	④保健部に関する各種統計提示		・保健室利用者及び疾病の種類の把握 ・利用者数の把握　各検査健診結果統計	3	3	3	3
生徒指導部	①あいさつの充実	生徒指導課	生徒会・学年部との連携	2	2	2	2
	②身だしなみを整える		頭髪、服装指導（各学期１回）	2	2	2	2
	③時間を守る		授業管理の徹底、意識啓発、遅刻対策	1	1	1	1
	④掃除の励行		保健部や生徒会との連携による推進	1	2	2	2
	⑤各種規定の見直し		関係各所への聞き取り、調整	2	2	2	2
	⑥校内の生徒指導体制の確立		課会開催、意見集約、聞き取り調査	2	2	2	2
	⑦法令遵守の精神を養う	交通指導課	交通マナー指導、運転免許取得指導	2	1	2	2
	⑧交通事故を防ぎ、生徒の命を守る。		街頭指導による声掛け、通学経路指導、変形自転車指導	2	1	2	2
	⑨自転車盗難、トラブルの防止		自転車ステッカー貼付・施錠指導	2	1	2	2

	⑩学園祭の充実	生徒会課	各クラスへの積極的働きかけ		2		2
	⑪生徒会行事運営の円滑化		生徒会内での連携強化	2	3	3	3
	⑫人権尊重と差別のない学校づくり	人権同和課	教職員研修の実施	1	1	1	1
	⑬反差別の仲間づくりと生徒相互の人間関係の構築		校外での講演会参加の呼びかけ アンケートＱＵの実施	2	2	2	2
進路指導部	①生徒の進路保障 ・学校斡旋による就職内定率、定着率の向上を目指す。 ・縁故就職者への支援 ・公務員希望者への対応	職業指導課	★適性に応じた指導、面談を重ねて生徒、保護者の意向や希望の集約をする ・基本的生活習慣や学力を身につける ・遅刻・欠席の多い生徒ややる気のない生徒への対応 ・ハローワークや関係機関との連携強化 ・早期離職を防ぐためにジョブフェアや応募前見学等を活用 ・夏季補習や採用試験に対応できる対策をとる（作文・ＳＰＩ検査など）		2	2	2
	②社会人としての素養を高める ・キャリア教育の実施。 ・社会人基礎力を育てる。 「遅刻・欠席をしない」 「挨拶をする」 「コミュニケーションが取れる」		・学校内での言葉の使い方・服装頭髪 ・外部講師による講話やマナー指導の実施 ・面接指導を通して、社会人としてのマナーを身につけさせる。また、自分の意見をきちんと伝えられるようにする。	2	2	2	2
	③応募前見学、企業ガイダンスの実施 ・県、市、ハローワークと連携		・求人票だけでなく、ガイダンス・職場体験を通して実際の仕事や職場の状況を知り、職場選択の取り組みを促す。 ・就職先の新規開拓をする。		3	3	3
	④総合ビジネス科生徒の上級資格取得者に対して、上級学校（できれば国公立大学）への進学を促す。	進学指導課	・本人の希望に合わせて、上級資格を利用できる入試がある上級学校を紹介する。 ・受験する大学に合わせた小論文対策を早期より行う。			2	2
	⑤国公立大学合格者を数名出す ・国公立大学の合格者数を昨年以上にする （昨年２名→５名以上） ・大学・短大の合格者割合を増やす。 （昨年２７％→３５％へ）		・進学希望者対象補習を早期より計画的に行う。 ・大学、短大、専門学校との連携の強化・拡大を図る。 ・模試を有効に活用（特に、復習と学習方法の検討）する。			2	2
	⑥スタディサプリの有効活用 ・特別進学コースにおいて、家庭学習を定着させて受験の基盤となる学力を身につけさせる。 （平日１年１h、２年２h、３年３h 休日１年３h、２年４h、３年５h ※３年部活動生徒は－１h）		・週末課題→週明けチェックテスト→復習の流れで家庭学習のきっかけをつくる。 ・到達度テストの結果から個別の学習計画を各自で作成する。 ・定期的に家庭学習時間調査を実施する。		1	1	1
	⑦Classi のポートフォリオ機能の活用 ・１、２年生において、新テストに対応できるようにポートフォリオを作成する。 （提出率１００％になるように）		・年間計画を立てて担任からポートフォリオ課題を配信する。 ・大学入試制度の変化によるポートフォリオの必要性を説明する機会を作る。		1	1	1

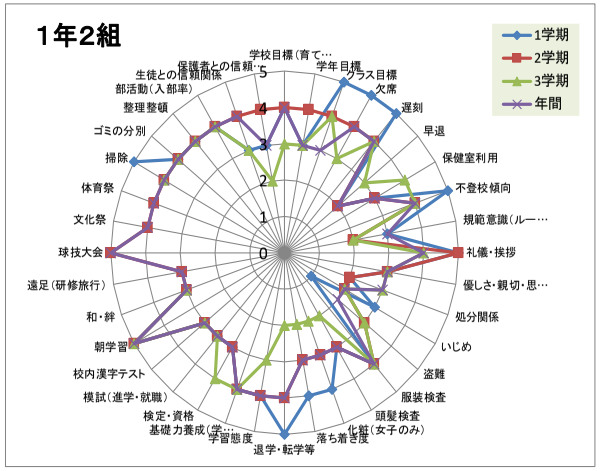
学年部	①基本的生活習慣の確立 ・遅刻率を５％以下に ・出席率を９５％以上に ・皆勤者を３０名以上に	一年部	・朝学習を充実させることで４０分には教室に入る理由作りをして遅刻しないように指導する。 ・欠席が多いと進路に影響することを理解させ、生活のリズムを作らせる。	３	２	３	３
	②基礎学力の向上と学習習慣の涵養 ・漢字テスト平均点 70 点以上 ・論理言語力検定　３級合格 ・各種検定試験への挑戦		・新聞、本を読むことを勧める。 ・進路先に提出する書類に記入できるような各種検定試験の３級以上の合格を目指し、学習習慣を身につけさせる。 ・合格することで自信を付けさせる。	２	３	３	３
	③１４３名全員の進級 ・年度末の追試数を 15 名以下に		・授業に集中させる。 ・普段の授業を大切にさせ、保健室の利用を少なくする。	２	２	２	２
	④進路のビジョン化 ・ＣＣＰの理解度を 90%以上に		・ＣＣＰの授業を充実させる。 ・面談はもちろんのこと、普段の生徒との会話からも進路が意識できるような仕掛けをしていく。 ・進路講演等で外部講師の方から刺激を与えてもらい、生徒が進路を考える機会を増やす。	２	３	２	２
	①出席率を９５％以上に！	二年部	・月１回の服装頭髪検査と遅刻者への特別指導を徹底し、基本的な生活習慣をより高い次元で確立させたい。また昨年度から使用している手帳の使用頻度を高め、次年度のポートフォリオ入試への対策としていきたい。部活動においてはチームの中心的な存在となって活躍し、部活動への理解と憧れを持ってもらえるような生徒を育成したい。また生徒の学力を向上させるため、８時４０分からの朝学習を充実させるとともに、各種の実力テストや検定に能動的に取り組み、一つでも多くの資格を取得させたい。その結果として学年で取り組む漢字検定の合格者を５０名以上にする。当然ながら１５４名全員の進級を目指して指導していきたい。	２	２	２	２
	②遅刻率を２％以下に！			２	２	２	２
	③部活動入部率を 70%以上に！			１	１	１	１
	④漢字検定合格者を 50 名以上に！			１	１	１	１
	⑤１５４名全員の進級を達成！			１	１	１	１
	①進路を決定する 進学希望者：全員合格 就職希望者：学校斡旋１００％	三年部	・昨年までのＣＣＰ学習や進路適性検査をもとに自己理解を深めさせ、家庭と連携をとりながら目標を絞らせる ・進路指導部と相談し、進路を具体的に展望させる ・進路先の推薦条件は評定の高い方が有利であることを認識させ、学習への意欲を高める。 ・始業のチャイムと共に行動させ、授業に集中させる ・校訓・生活努力目標等の具現化を図る ・保健室との連携を密にし、生徒の情報を学年部で共有する ・担任の個性を生かしたクラス経営をすると共に、日々の生徒の変化に迅速に対応する ・部活動や学校行事等を通じて協調性を身につけ、継続と努力の大切さを学ばせる	２	２	２	２
	②学期末の評価点アップ 総合ビジネス科 5.3⇒5.5 以上 普通科総合コース 5.2⇒5.5 以上 普通科特進コース 5.5⇒5.7 以上			３	３	３	３
	③出席率の向上 97.3%⇒98.0%以上			２	２	３	２
	④遅刻率の減少 3.9%⇒2.0%以内			２	２	３	２
	⑤転退学者ゼロ　１０名⇒０			３	２	２	２
	⑥皆勤者の増加 １９名⇒３０名以上			２	２	２	２

令和元年度　担任振り返りシート集計表（1年生）

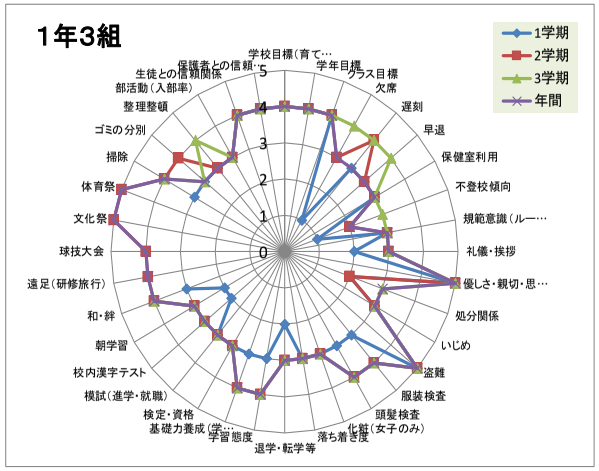
クラス目標	・タガタメに動けるクラス ・自分にあった学習方法の確立 ・全員で進級



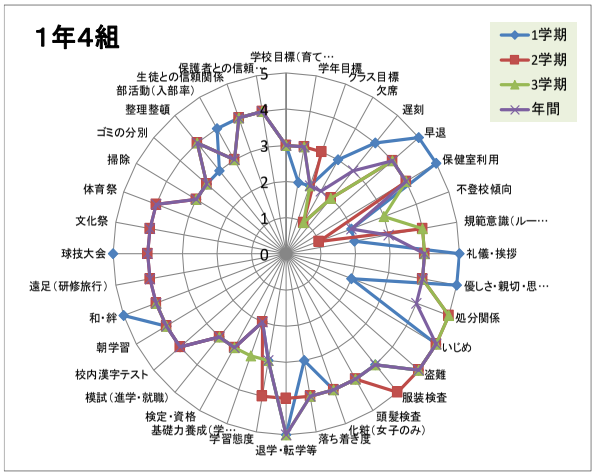
クラス目標	・学び直し ・中学生から高校生へ ・27名全員で進級



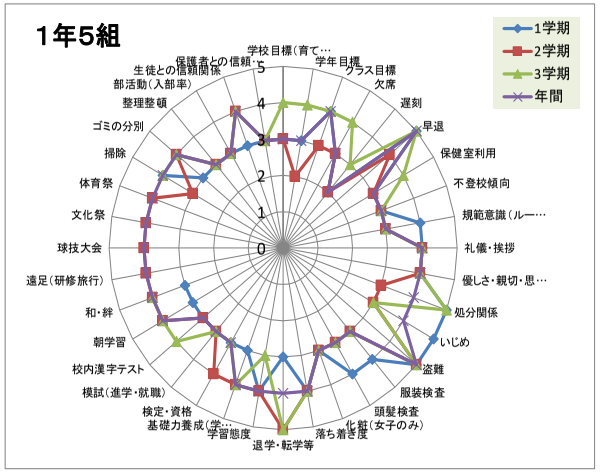
クラス目標	・1人1人の「ちがい」を理解し受け入れる ・就職や進学を今から考える ・社会人の礼儀と作法を身に着ける



クラス目標	「全員進級～貯金づくり～」 授業・・・起きてノートを取る、提出物の期限を守る。 生活・・・遅刻・欠席をしない、処分につながる行動や発言をしない。

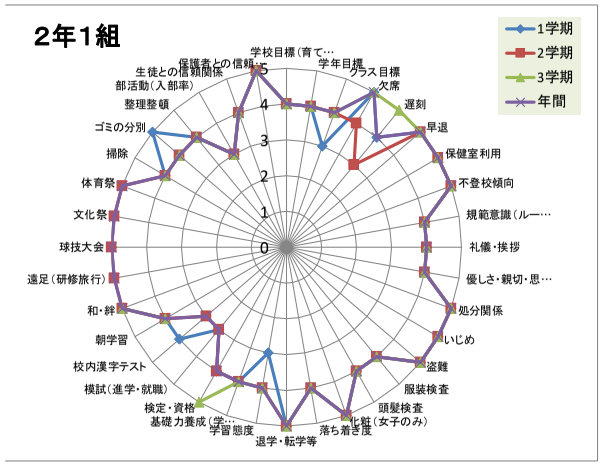


クラス目標	相互理解できる集団 自分の興味，得意を理解しよう 他人の興味，得意を理解しよう 普通や当たり前はないことを理解しよう

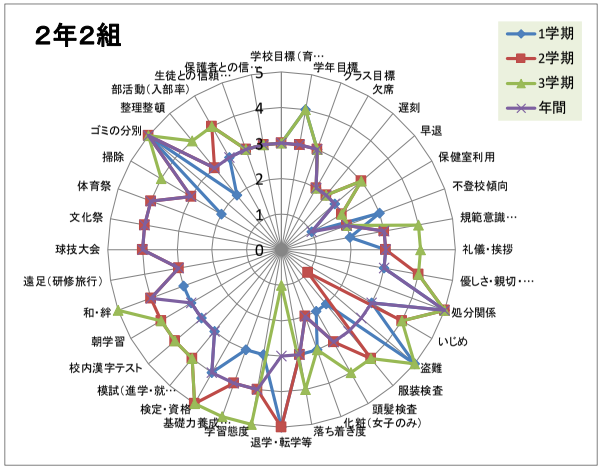


令和元年度　担任振り返りシート集計表（2年生）

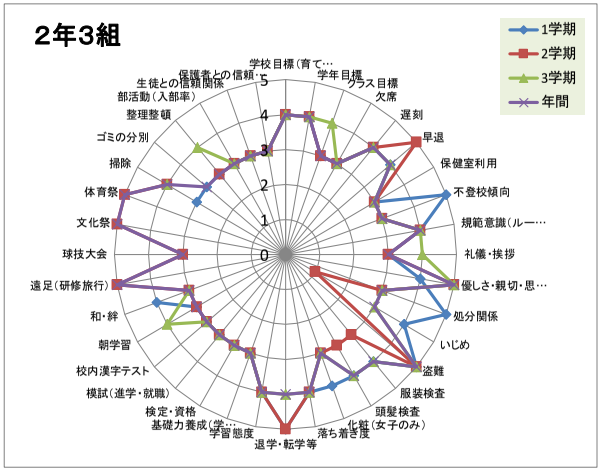
クラス目標	できる(た)を増やす



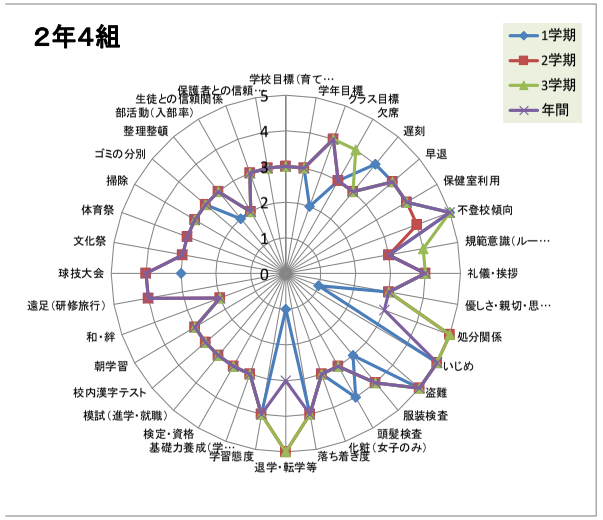
クラス目標	形　影　相　同 〔心の善悪が行動に出ること〕 ～正しい判断によって、正しい行動を続ける～



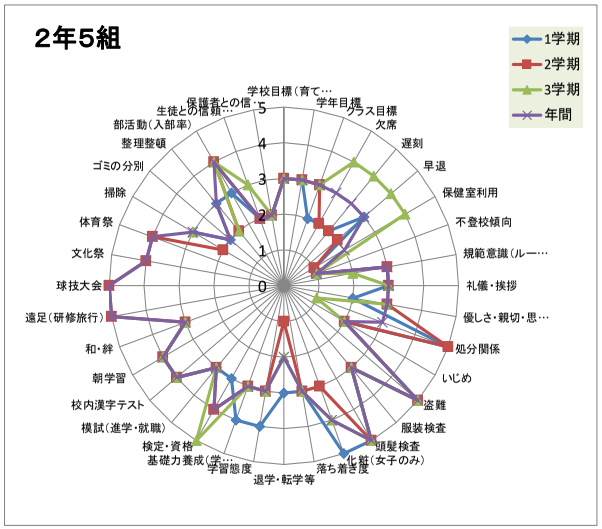
クラス目標	ゴールを探し続ける



クラス目標	・進路の目標を明確にする1年。 ～実現のために必要なことを知る＆実践する1年～

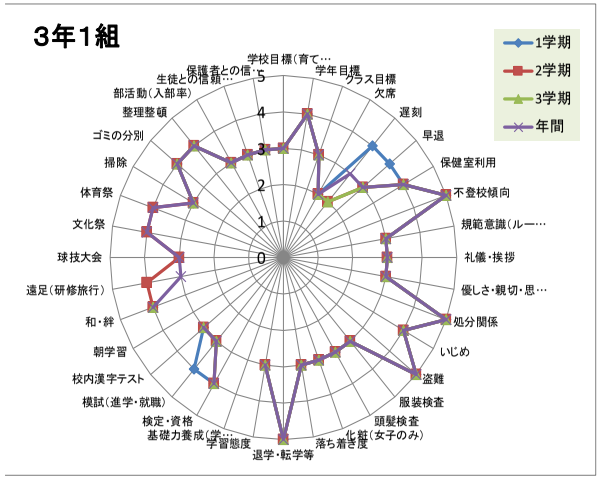


クラス目標	ーは全、全はー 自分が環境をつくり、環境によって自分が成長する

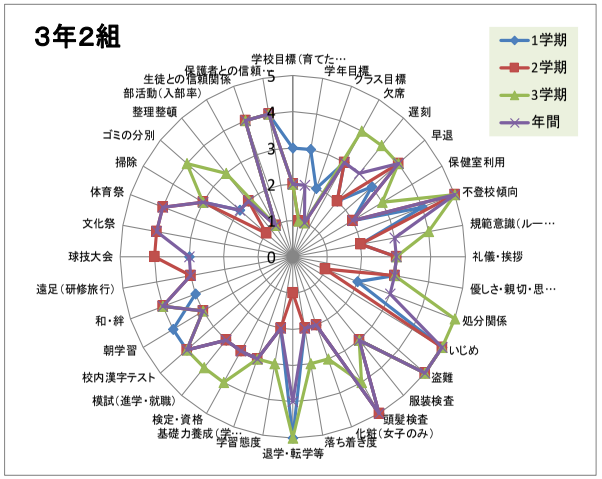


令和元年度　担任振り返りシート集計表（3年生）

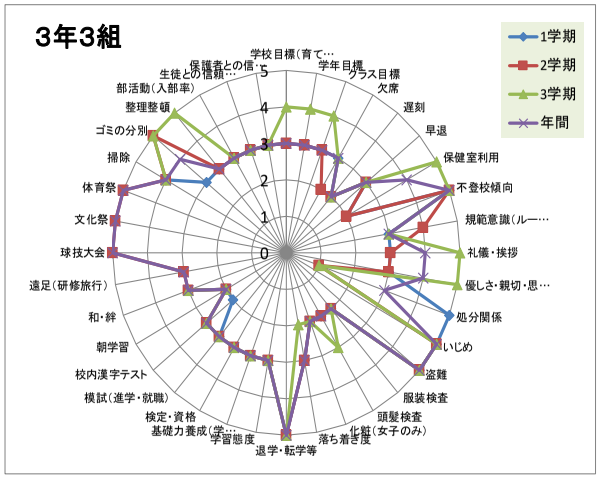
クラス目標	「それでもなお」



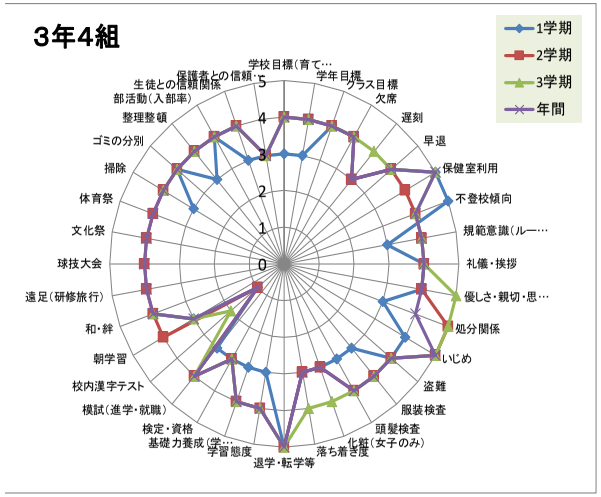
クラス目標	25人の進路実現と卒業 当たり前のことが当たり前にできる人間に



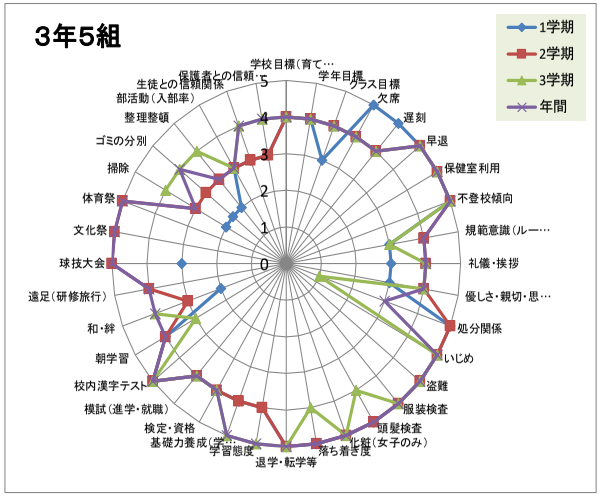
クラス目標	熱く生きる



クラス目標	大丈夫（徳をつむ）

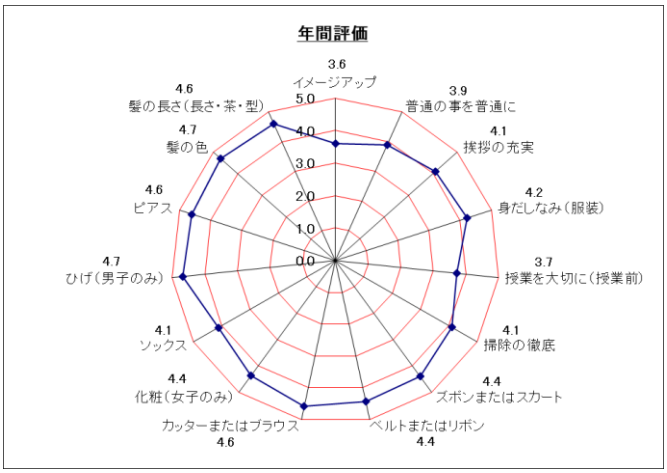


クラス目標	No Regrets ①休まない②復習③漢字テスト PERFECT

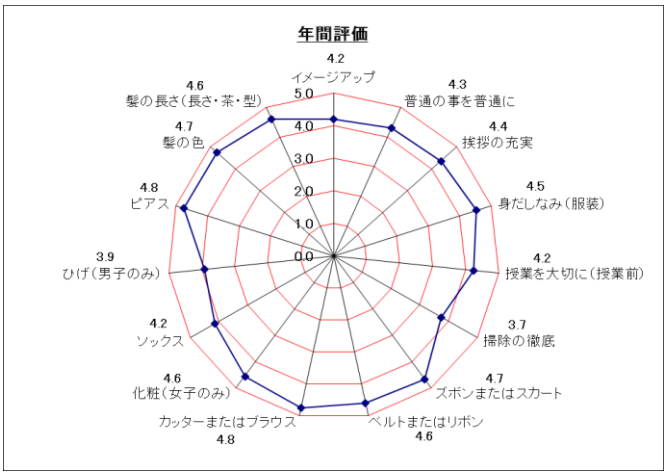


＜１年生＞生徒自己評価（年間集計）

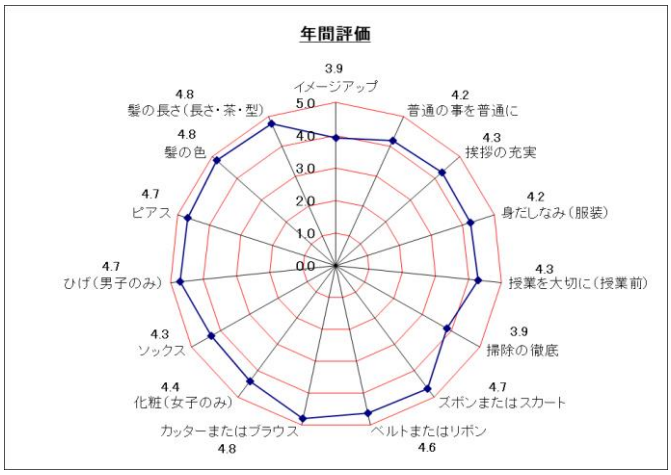
1-1



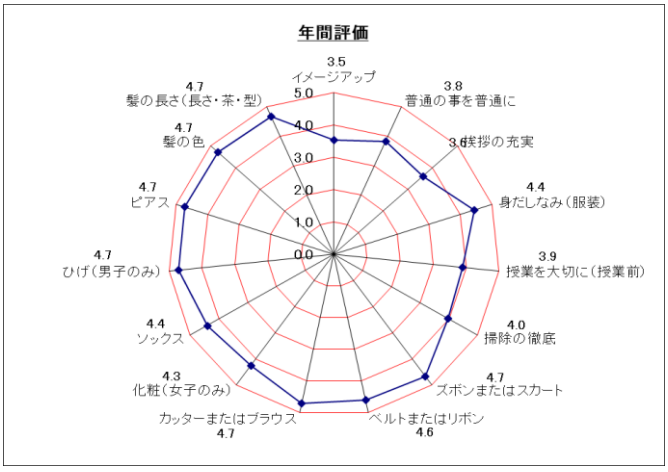
1-2



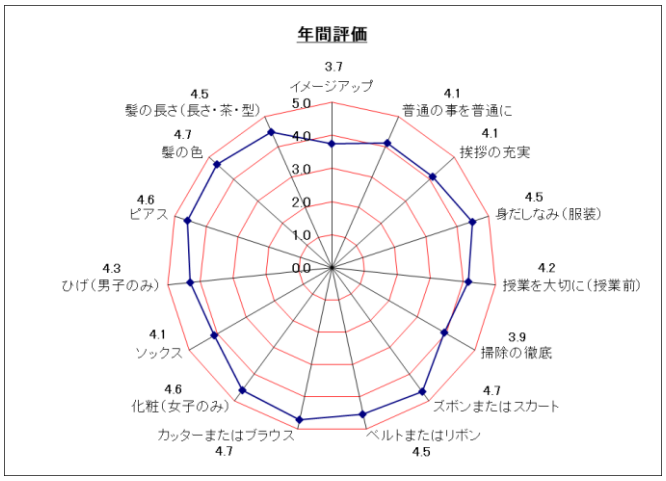
1-3



1-4



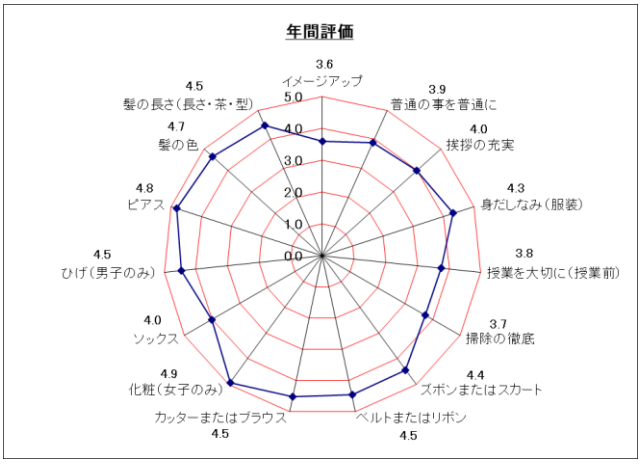
1-5



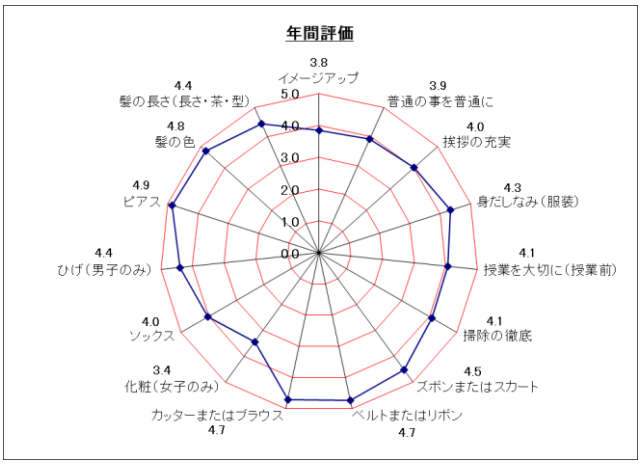
	令和元年を振り返って（担任）
1 組	学年末で辞める生徒がなく、27 名で進級できた。不登校傾向生徒を学校に来させる流れで最終日を終えることができなかった。初の 1 年総合ビジネス科担任で反省の連続だったが、貴重な経験ができた。
2 組	1学期のスタートは、他のクラスに比べ良かったが、表面上と内面の部分は全く異なることを痛感した。もっと生徒と会話指導すべきだった。2学期にいじめがあったり、学習室登校の生徒が出てきたことにより一人一人が反省する機会が得られた。担任としてはいじめ等が発生しないよう気付きが大事であると思った。
3 組	言葉遣いや態度に気を付ける生徒が増えてきた。小さなトラブルが起きているので、大きな問題に発展しないよう注意する必要がある。
4 組	クラスの和や、時間を見て行動することなど多くの場面で成長している姿を見ることができた。人間関係が悪化してクラスに入ることができなかった生徒を救えなかった。力不足を感じた。次年度に絶対に生かしていきたい
5 組	小さな人間関係トラブルはあったが、バランスの取れたクラスの雰囲気で終われた。1 年通して週末課題を出し続けたので、学習が習慣化できた。学習やらされる状態が続いたため、自主的な学習の形が作れなかった。最後まで遅刻が治らなかったので、伝え方を工夫すべきであった。

＜２年生＞生徒自己評価（年間集計）

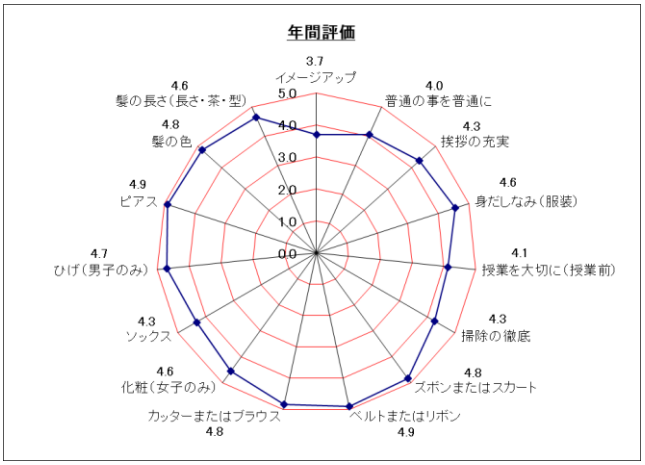
2-1



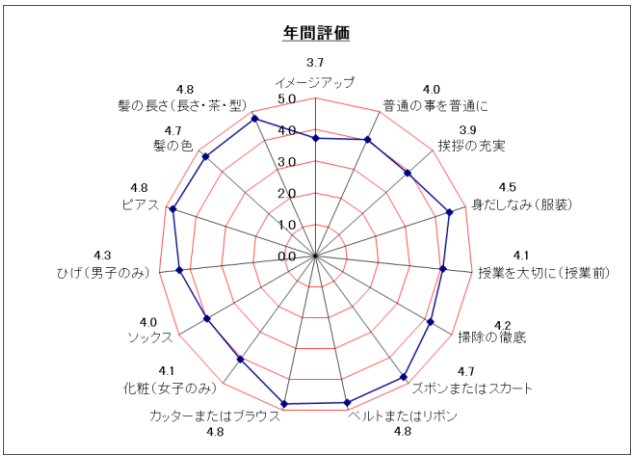
2-2



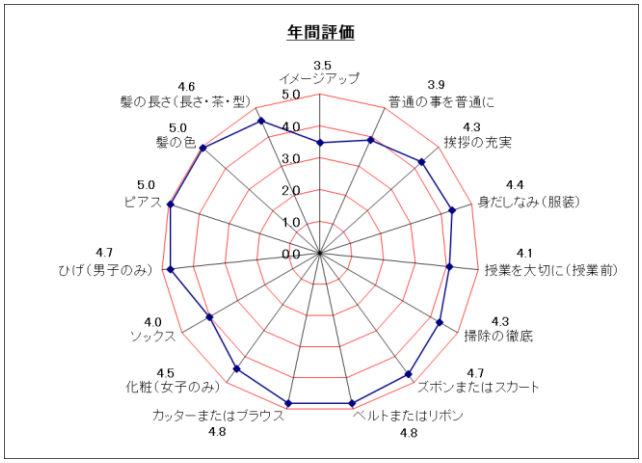
2-3



2-4



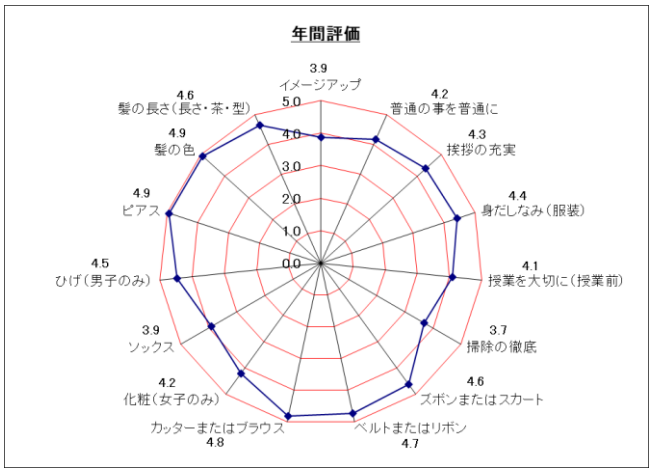
2-5



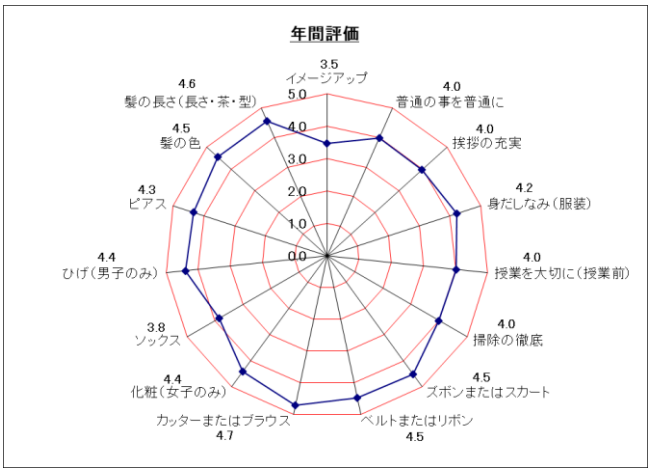
	令和元年を振り返って（担任）
1 組	年間を通して落ち着いた学校生活を過ごすことができた。行事も協力して参加し、目標としていた「できたを増やす」という所で検定 1 級合格者が出るなど全体で合格率も上がった。来年度はいよいよ 3 年生となる。まだまだ意識の足りない生徒もいるように感じる。継続してしっかりと指導に取り組んでいきたい。
2 組	勉強に対して意識が変わった。自分勝手な行動に気付かない。
3 組	不安になる時期もあったが、前を向き出した。進路のことを真剣に考える生徒が増えた。退学者が出た。一つにするのは難しい。
4 組	いろんな面で大きく崩れる生徒が出なかった。今年は退学者を出したくなかった。
5 組	人間関係のトラブルがおおむね解消された。学習・進路意識が高まった。転出を留めるに至らなかった。1 年次は前半の貯金で何とかなった部分もあったが、2年次は改善されない状況での進級となった。

＜３年生＞生徒自己評価（年間集計）

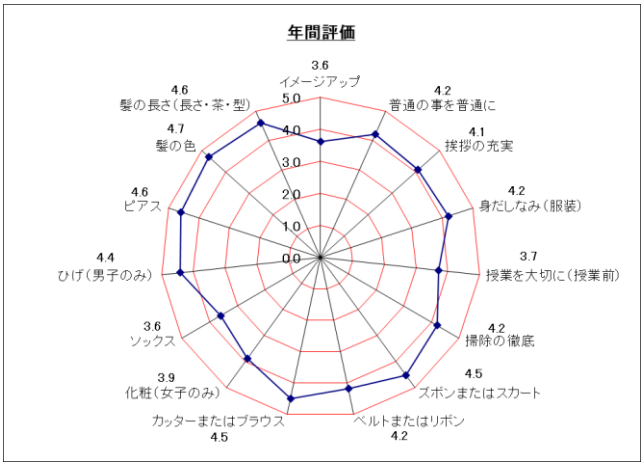
3-1



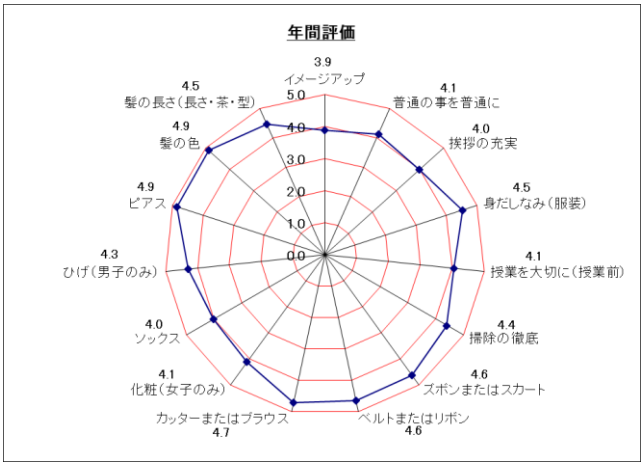
3-2



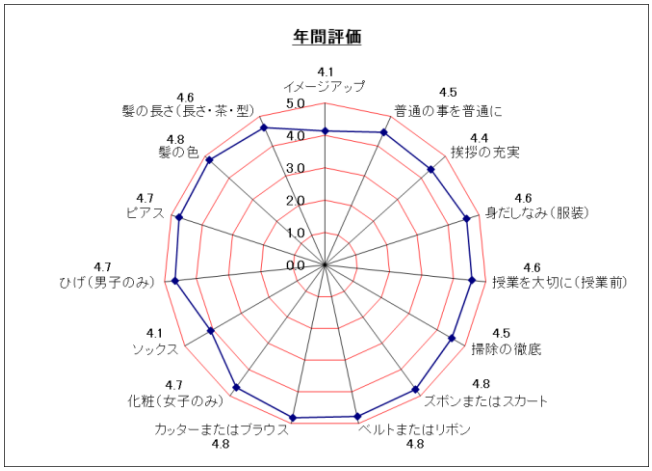
3-3



3-4



3-5



	令和元年を振り返って（担任）
1 組	進路実現後も多くの生徒がブレることなく、努力を続けた。一部の生徒において、大人への成長に達していないように感じ残念である
2 組	2 年次から比べると少し落ち着いてきたが、特定の人物の問題行動は繰り返された。3 年生の卒業目前に退学者が出た。学級目標を達成できなかった。進路を保障することに対して、基準ラインがなく、校内での選考基準が必要だと感じた。
3 組	色々あったが、年度当初の人数で卒業できた。悪かった点はたくさんあるが、次年度から修正したい。
4 組	3年間の集大成ということで、成長を日々感じながら有意義に過ごせた。欠席、遅刻は少なかったが、「0」の日もほとんどなかった。”悔しいです”3年間大雨、大雪、台風、コロナなどイレギュラーが多い中よく頑張った。
5 組	担任が思っている以上に生徒はしっかりしていて、もっと委ねたり任せることができたかもしれない。生徒のポテンシャルをもっと引き出す取り組みをする必要があった。

令和２年度

松江西高等学校

自己点検・自己評価（ＰＤＣＡ）

＜目標・計画＞

- 学校評価（重点課題・徹底したい取り組み等）
- 分掌部評価（分掌部評価表）
- 学級評価（担任振返シート）
- 生徒自己評価（生徒指導部）

令和２年度　松江西高等学校　学校評価
＜重要課題＞

PLAN		DO	CHECK	ACTION
重点目標	重点項目	具体的な取り組み	達成度判定基準	分析（成果と課題）及び改善策
３つの生徒像	～どんな生徒を求めているか？～ ①これまでの義務教育を振り返り、これからの高校生活を充実させるための目標を持っている生徒 ②本校の教育テーマである「未見の我の発見」に向けて努力する生徒	①、②については入試説明会、中学校訪問等で伝える。特に①については専願生の面接項目に入れる。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（校長）
	～どんな生徒を育てたいか？～ ・育てたい生徒像である「基礎・基本を見につけ、将来像を持った明るく活力ある生徒」を育てる	基礎学力、基本的生活習慣、キャリア教育、部活動・学校行事を通して、社会人としての基盤をつくる。また学期ごとにアンケートを実施し、定着度を確認する。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（校長）
	～どんな社会人になってほしいか？～ ・ローカルマインドを持った地域社会に貢献できる生徒 （ローカルマインドとは、地域を知り、地域を愛する心のこと）	約七割の生徒が地元に残る現状を踏まえ、地域と連携、協力して地方創生に協働する人材を育てる。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（校長）
課題	魅力あるカリキュラム・学科・コースの見直し	目の前にいる生徒に即した魅力あるカリキュラム・学科・コースを構築する。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（校長）

＜徹底したい取り組み＞

PLAN			DO	CHECK	ACTION
重点目標	重点項目		具体的な取り組み	達成度判定基準	分析（成果と課題）及び改善策
育てたい生徒像／基礎・基本を身につけ、将来像をもった明るく活力ある生徒	基礎学力養成	高校生のための「学びの基礎診断」	年間１回（９月）実施することになった。本校にとって大きな指標にしたい。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（松浦）
		基礎力養成対策	Ａ～Ｄ層のうちＤ層の減少を目標とする	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（松浦）
		学び直し	ベネッセ教材を活用し中学校時の積み残しを学び直し、高校教育課程へつなげる。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（松浦）
		語彙力養成	本校の生徒に合った題材を準備し、楽しく語彙力が身に付くように工夫し、Literas 論理言語力検定の合格者を増やす。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（松浦）
	新しい授業のかたち	アクティブラーニング等による「生徒参加型授業」の取り組み	「知識・技能」の習得からその活用へ重点をシフトし、生徒を主体とする授業の形成に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（和田）

	ＩＣＴ等の活用	基礎学力基盤養成	ベネッセのクラッシー学習サポート（動画学習）の活用による基礎学力の定着に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（和田）
		進学するための学力養成	リクルートのスタディーサプリの活用による実力養成に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（和田）
		就職するための学力養成	ＳＰＩの活用による就職試験に合格できる学力の養成に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（松浦）
	検定その他	朝読書の推進	8:30～8:40 朝読書（月、金）を実施する。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（柏尾）
		校内漢字テスト	年６回の漢字テスト、３回の漢字検定を実施する。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（小澤）
		各種検定資格取得	＜総合ビジネス科＞ 簿記、情報、ワープロ、電卓、介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー２級）等の資格取得に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	全商簿記 全商電卓 全商ビジネス文書 全商情報処理 介護職員初任者研修 （加納）
			＜普通科＞ 漢検・英検・日本語検定・語彙力検定等の資格取得に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	日検ワープロ検定 日検情報処理検定 （加納） 全商英検 実用英検 （柏尾） 漢字検定 （田中） Literas 論理言語力検定 （広瀬） 日本語検定 （日野）
	基本的生活習慣と生徒指導	社会性の育成	社会規範を示し、将来社会人として自立するための基本を身につけさせる。校内外パトロールを通して本校生徒の実態を把握し、正しい方向に導く。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（原田）
		服装・頭髪	月１回全校一斉検査を実施し、改善まで徹底指導する。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（原田）
		挨拶	全職員による日頃の地道な指導が大切。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（原田）
		マナー	根負けしない教職員の指導が大切。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（原田）
		いじめ問題	いじめは未然防止に尽きる。日頃からの全職員による観察が肝要である。いじめは絶対許さない姿勢を日々示す。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（原田）
	将来像	ＣＣＰ教育（キャリア教育）	ＣＣＰ教育を基盤とし、将来像を描ける生徒になるよう、キャリア教育に努める。	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	＜１年＞ （柏尾）
				Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	＜２年＞ （杉田）
				Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	＜３年＞ （日野）
		進路ガイダンス	進学に関するガイダンス	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（加藤・松浦）
			就職に関するガイダンス	Ａ　Ｂ　Ｃ　Ｄ	（加藤）

		職場見学、職場体験等の活用による離職対策	安易な職業選択による離職率は増加の傾向にある。職場見学、職場実習の機会を増やすなど、離職率減少対策に努める。	A　B　C　D	（加藤）
	明るく活力	行事を大切にする	師弟が結束して行事に取り組み、行事を通してクラス、学年の帰属意識を高める。	A　B　C　D	（安達教頭）
		部活動に入る／入部率向上	入部率７０%をめざす。	A　B　C　D	（安達教頭）
		特待生の積極的な勧誘で学校活性化に努める。	部活動をけん引する特待生の確保に専念する。 （目標３０名）	A　B　C　D	（安達教頭）

＜継続して取り組む課題＞

PLAN			DO	CHECK	ACTION
重点目標	重点項目		具体的な取り組み	達成度判定基準	分析（成果と課題）及び改善策
①生徒数の確保	入学生定員１７６名確保		本校の取り組み・魅力を積極的にＰＲ。中学校訪問回数を増やす。	A　B　C　D	（中村）
	志願者数７００名		多様化する生徒に対応した本校の受験型と特待制度の浸透に努める。	A　B　C　D	（中村）
	マスコミ・メディアの活用		本校の行事等をマスコミに積極的に報道依頼する。	A　B　C　D	（中村）
	効果的なイベント		本校に興味・関心が向くようなイベントを工夫する。	A　B　C　D	（中村）
	入試の改善		改善すべき点、新しく導入すべき点等を検討する。	A　B　C　D	（中村）
	塾対応		塾への訪問回数を増やし、本校の PR に努める。	A　B　C　D	（中村）
②生徒数の維持	退学１０名、転出１０名、計２０名までに留める		日頃の出欠状況に注視し、安易な退学、転出の予防に努める。	A　B　C　D	（校長）
③その他	支援生徒への対応	不登校の問題	中学校、支援組織等からの情報を収集し、保護者との協力のもと不登校の改善に努める。	A　B　C　D	（原）
		特別支援生徒	実態をまず把握し、中学校、支援団体等からの助言を得ながら、連携して合理的配慮に努める。	A　B　C　D	（原）

		外国籍生徒学習支援	同時通訳機や日本語指導員等を活用し、言葉の壁を軽減したい。学習評価も合理的配慮が必要な場合はその都度検討する。	A　B　C　D	（広瀬）
		合理的配慮	保護者、担任等からの申し出を受け、その都度、検討し、生徒の困り感を軽減する。	A　B　C　D	（安達教頭）
	地方創生	ふるさと教育の実践	ふるさとを知り、ふるさとを愛する人材の育成に努める。	A　B　C　D	（校長）
		地域に貢献する人材の育成	地域に根差し、地域を支える人材の育成に努める。	A　B　C　D	（校長）
		自治会等の連携活動	自治会との連携を密にし、お互いに助け合う関係を築きたい。	A　B　C　D	（校長）
	学校評価の推進と学校運営の改善	学校評価	学校の年間重点目標と戦略をＰＤＣＡを通して、全体評価する。	A　B　C　D	（客野教頭）
		分掌部評価表	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A　B　C　D	（客野教頭）
		担任振返りシート	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A　B　C　D	（客野教頭）
		クラス努力目標	努力目標をクラスに掲示し、振返りシートで反省、改善に努める。	A　B　C　D	（客野教頭）
		生徒自己点検	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A　B　C　D	（客野教頭）
		シラバス学習指導計画	各学期末、年度末に自己点検・自己評価を実施する。	A　B　C　D	（坂田）
		授業評価	Classi によるアンケート調査を実施する。	A　B　C　D	（坂田）

＜集計＞

評価項目 （５１）	Ａ／？	Ｂ／？	Ｃ／？	Ｄ／？

令和２年度　松江西高等学校分掌部年間目標と計画

１．教育理念

（１）本校の使命（ミッション）

建学の精神である「真に社会に役立つ実践的人材の育成」を使命とする。基礎・基本を身につけ、人格の形成に主眼を置いた教育実践を通して、地域に根差し、地域の期待に応える学校づくりを推進する。

（２）使命の追求を通して実現しようとする本校の生徒像（ビジョン）

本校の育てたい生徒像である「基礎・基本を身につけ、将来像を持った明るく活力ある生徒」具現化のための重要ポイント

１．基礎力養成補習、学び直し、語彙力養成を通して基礎学力を養成させる
２．平素の学校生活を通して正しい服装と礼儀・挨拶を習得させる
３．ＣＣＰ教育、インターンシップを通して将来像を持たせる
４．部活動、学校行事を通して明るさと活力を身につけさせる

２．分掌部年間目標・計画・評価　　評価　１　よくできなかった／　２　まずまずだった／　３　大変よくできた

分掌	年間重点目標	当担	目標達成のための計画	評価（1学期）	評価（2学期）	評価（3学期）	評価（学年）
総務部	①受験者数・入学者数の確保 ①体験入学参加者 300 名の確保（昨年 228 名）	入試課	・松江西高タイムス・学校案内発行 ・学校紹介ビデオ・パワーポイント作成 ・中学校における進路説明会実施 ・中学校教員対象入試説明会実施 ・中学生・保護者対象入試説明会の実施				
	②中学生・保護者対象入試説明会参加者 550 名の確保（昨年 530 名）						
	③受験者数 700 名の確保（昨年 606 名）						
	④入学者 176 名の確保（昨年 174 名）						
	②円滑な学校運営	総務課	・年間行事計画作成・調整 ・職員会議企画・運営、会議録の作成・資料保管 ・学校要覧、職員名簿・緊急連絡網・身分証明書等の作成 ・100 周年資料の収集・整理・保管				
		式典課 総務課 入試課	入学式、卒業式、始・終業式等の企画実施				
			入学試験の企画・実施、入試関係事務処理				
			専願合格者入学前指導、新入生一日入学企画・実施				
		厚生課	・各種育英資金募集についての連絡・相談 ・学校生協関係の連絡・事務 ・慶弔に関する庶務				
	③施設設備の管理・保全	施設課	・校舎・施設、机・椅子等の破損調査整備 ・校舎内外の環境整備・美化				
	④防災体制の確立	総務課 施設課	・防災組織の整備、研修・訓練の実施と検証 ・防災教育の企画・実施 ・緊急時一斉メール配信システムの整備と管理 ・防災設備の点検・整備				
	⑤学校広報の推進	施設課	・西高だより（年２回）・「がんばれ西高！」（随時）発行 ・学校ホームページ更新				
教務部	①授業の管理（自習時間の削減）	教務課	・授業変更は原則１日４時間以内で、同一クラス同一教科が無いようにするが、できない場合は自習とし、学年部等に依頼する。				
	②授業時数の確保		・時間短縮等で学校行事等とのバランスをとる。				
	③基礎学力の向上に努める		・補習の計画に取り組む。 ・基礎学力向上の計画を策定する。				
	④新課程への対応		・新カリキュラム作成				

	⑤基礎学力の向上に努める	学習指導課	・進学指導部とタイアップしてＤ３の減少を図るとともに､全体のレベルアップに努める。				
	⑥朝学習の活用		・朝の語彙力養成の定着に努める。				
	⑦公開授業を行うと共に、授業改善課と連携	研修課	・教科主任と協議してベテラン・中堅・若手の数、教科のバランスを考慮する。				
	⑧読書週間（読み聞かせ）の活用	図書課	・速読技術ＣＤの活用 ・朝学習用の冊子貸し出し（20 冊ずつ） ・月１回新刊紹介（広報活動） ・教員による読んでほしい本紹介				
	⑨授業の工夫	授業改善課	・機器の利用等				
	⑩アクティブラーニング		・研修会の実施				
	⑪総合学習と総合探求		・学年主任との協議と外部情報を考慮				
保健部	①環境美化の推進	保健課	・ゴミ分別の円滑化 ・清掃活動				
	②健康管理の徹底		・生活改善(朝食・睡眠・スマホ)に向けた指導の充実を図る。 ・健康観察などからの情報収集により身体、心の問題の早期発見、早期対応を図る。				
	③各諸問題に関わる研修		・時代に対応した各種研修を実施。				
	④保健部に関する各種統計		・保健室利用者及び疾病の種類の把握 ・利用者数の把握　各検査健診結果統計				
生徒指導部	①あいさつの充実	生徒指導課	生徒会・学年部との連携				
	②身だしなみを整える		頭髪、服装指導（各学期１回）				
	③時間を守る		授業管理の徹底、意識啓発、遅刻対策				
	④掃除の励行		保健部や生徒会との連携による推進				
	⑤各種規定の見直し		関係各所への聞き取り、調整				
	⑥校内の生徒指導体制の確立		課会開催、意見集約、聞き取り調査				
	⑦法令遵守の精神を養う	交通指導課	交通マナー指導、運転免許取得指導				
	⑧交通事故を防ぎ、生徒の命を守る。		街頭指導による声掛け、通学経路指導、変形自転車指導				
	⑨自転車盗難、トラブルの防止		自転車ステッカー貼付・施錠指導				
	⑩学園祭の充実	生徒会課	各クラスへの積極的働きかけ				
	⑪生徒会行事運営の円滑化		生徒会内での連携強化				

	⑫人権尊重と差別のない学校づくり	人権同和課	教職員研修の実施				
	⑬反差別の仲間づくりと生徒相互の人間関係の構築		校外での講演会参加の呼びかけ アンケートＱＵの実施				
進路指導部	①生徒の進路保障 ・学校斡旋による就職内定率と定着率の向上を目指す。 （学校斡旋内定率 100%） （3 年以内離職率 20%以内） ・縁故就職者への支援 （ビジネスマナーの定着） ・公務員希望者への対応	職業指導課	・適性に応じた指導、面談を重ねて生徒、保護者の意向や希望の集約をする。 ・基本的生活習慣や学力を身につける ・遅刻・欠席の多い生徒ややる気のない生徒への対応 ・ハローワークや関係諸機関との連携を強化 ・早期離職を防ぐためにジョブフェアや応募前見学等を活用 ・夏季補習や採用試験に対応できる対策をとる。（作文・ＳＰＩ検査など）				
	②社会人としての素養を高める ・キャリア教育の実施。 ・社会人基礎力を育てる。 「遅刻・欠席をしない」 「挨拶をする」 「コミュニケーションが取れる」		・校内での挨拶・言葉の使い方・服装頭髪 ・外部講師による講話やマナー指導実施 ・面接指導を通して、社会人としてのマナーを身につけさせる。また、自分の意見をきちんと伝えられるようにする。				
	③インターンシップの実施 ・2 年生の 10 月～11 月実施		・インターンシップの実施により、上記にある社会人としての素養を高め、「卒業後は社会人になる」という意識を学年全体・学校全体で持つようにする				
	④応募前見学、企業ガイダンスの実施 ・県、市、ハローワークと連携		・求人票だけでなく、ガイダンス・職場体験を通して実際の仕事や職場の状況を知り、職場選択の取り組みを促す。 ・就職先の新規開拓をする。				
	⑤総合ビジネス科生徒の上級資格取得者に対して、上級学校（できれば国公立大学）への進学を促す。 （昨年０名→３名以上）	進学指導課	・本人の希望に合わせて、上級資格を利用できる入試がある上級学校を紹介する。 ・選抜方法に合わせた個別の受験対策を早期より行う。				
	⑥国公立大学合格者を数名出す ・国公立大学の合格者数を昨年以上にする （昨年１名→３名以上） ・大学・短大の合格者割合を増やす。 （昨年４０%→４５%へ）		・進学希望者対象補習を早期より計画的に行う。 ・総合型・学校推薦選抜に向けた小論文対策として 5 月に添削模試を行う。 ・大学、短大、専門学校との連携の強化・拡大を図る。 ・模試を有効に活用（特に、復習と学習方法の検討）する。				
	⑦スタディサプリの有効活用 ・特別進学コースにおいて、家庭学習を定着させて受験の基盤となる学力を身につけさせる。 （平日１年１h、２年２h、３年３h 休日１年３h、２年４h、３年５h ※３年部活動生徒は－１h）		・週末課題→週明けチェックテスト→復習の流れで家庭学習のきっかけをつくる。 ・到達度テストの結果から個別の学習計画を各自で作成する。 ・学習シートを用いて学びの振り返りをすることで学習に対するメタ認知をさせる。 ・各学期に 1 回家庭学習時間調査を実施し、反省や改善の材料とする。				
	⑧Classi のポートフォリオ機能の活用 ・新入試に対応できるようにポートフォリオを記録する。 （提出率１００%になるように）		・年間計画を立てて担任からポートフォリオ課題を配信する。 ・大学入試制度の変化によるポートフォリオの必要性を説明する機会を作る。				

学年部	①出席率を９５％以上に	一年部	・担任と教科担当とのコミュニケーションを大切にする ・担任の個性を生かしたクラスづくりをするとともに、いじめや無視など、日々の生徒の変化に迅速に対応する				
	②転退学者６％以下に		・保護者への電話連絡や家庭訪問を必要に応じて行う ・各委員会の長との連絡を密にし、生徒の情報を共有する				
	③遅刻率を５％以下に		・始業のチャイムとともに行動させる ・ＨＲを通じて、基本的生活習慣を身につけることの大切さ、その行動が進路決定に影響するということを理解させる				
	④部活動入部率を７０％に		・部活動や全ての学校行事等にポジティブに挑むとともに、協調性を身につけ、その大切さを学ばせる				
	①基本的生活習慣の確立 ・遅刻率を３％以下に （昨年度末　３．８％） ・出席率を９５％以上に （昨年度末　９３．８％） ・皆勤者を３０名以上に （昨年度末　１４名）	二年部	・朝学習を充実させることで４０分には教室に入る理由作りをして遅刻しないように指導する。 ・欠席が多いと進路に影響することを理解させ、生活のリズムを作らせる。				
	②基礎学力向上と学習習慣の涵養 ・漢字テスト平均点　７０点以上 ・論理言語力検定　３級以上合格 ・各種検定試験（３級以上）へ挑戦		・新聞、本を読むことを勧める。 ・進路先に提出する書類に記入できるような各種検定試験の３級以上の合格を目指し、学習習慣を身につけさせる。 ・合格することで自信をつけさせる。				
	③１２９名全員の進級 ・年度末の追試対象者数を１５名以下に		・授業に集中させる。 ・普段の授業を大切にさせ、保健室の利用を少なくする。				
	④将来のビジョン化 ・進路選択能力の育成 ・コミュニケーション能力の向上 ・マナーや言葉遣いの習得		・ＣＣＰや探究学習、小論文学習の授業を充実させる。 ・面談はもちろんのこと普段の生徒との会話からもコミュニケーション能力の向上を目指し、進路選択や研修旅行が意識できるような仕掛けをしていく。 ・進路ガイダンスや公演会等で外部講師の方から刺激を与えてもらい、生徒が将来のことを考える機会を増やす。 ・研修旅行等を通し社会性を身につける。				
	①１４６名全員の卒業を達成！	三年部	・基本的な生活習慣を高次元で確立させるとともに、服装や頭髪を整え、「今から就職（進学）試験があっても行ける！」レベルを要求する！ ・様々な学力層の生徒が在籍しているが、全ての生徒が「学力」の向上に努め、朝学習や総合学習、ＬＨＲなどを活用して自学自習のできる学年を目指す。 ・新しく導入される生徒手帳の有効活用を目指し、伝達の記入は勿論、行動記録を残して「いつまでに・何をするか？」を明確にしてスケジュール管理をさせていきたい。 ・学年部として生徒の進路決定は勿論であるが、正しい職業観や倫理観を育み、周囲と強調することのできる「実践的人材」を育てるため、厳しく指導していきたい。				
	②検定１級３種目合格者を６名以上に！						
	③出席率を９７％以上に！						
	④遅刻率を２％以下に！						
	⑤漢字テストの学年平均点を 70 点以上に！						
	⑥国公立大学（短大）進学者を３名以上に！						
	⑦ＧＴＺがＡ以上の大学進学者を５名以上に！ ＊ＧＴＺ…学習到達ゾーンの略（ベネッセ社）						
	⑧学校斡旋による就職合格率を１００％に！ （3 年以上の定着を目指して指導する）						

令和２年度　松江西高校　努力目標

建学の精神
真に社会に役立つ実践的人財の育成

教育テーマ
未見の我の発見

育てたい生徒像
基礎基本を身につけ、将来像をもった明るく活力のある生徒

第１学年努力目標

①基礎学力の定着・向上
②基本的生活習慣の確立
③他者尊重の心を養う

クラス努力目標

１年１組（遠藤）　**時を守り　場を清め　礼を正す**
１年２組（柳樂）　①1 人1人の「ちがい」を理解し受け入れる
②礼節を大切にし、礼儀と作法を身に着ける
１年２組（井畑）　CHANGE－T
‖
CHANCE
１年４組（浅津）　**①心のこもった挨拶をする…自分から相手の顔を見て**
②時間を守る…３分前に授業の準備完了　１分前に着席完了
③言葉遣いに気をつける…自分の言葉に責任を持つ
１年５組（金崎）　**①基礎学力の定着・向上**
②基本的生活習慣の確立

第２学年努力目標

①基本的生活習慣の確立
②基礎学力の向上と学習習慣の涵養
③１２９名全員の進級
④将来のビジョン化

クラス努力目標

２年１組（田中敏）　・クラスの一員であるという意識を持とう
　　・頑張ることのできる力をつけよう
２年２組（小川）　今日は昨日の我に勝つ
２年３組（田中幹）　挑戦から新たな自分の発見
２年４組（小澤）　自分のために
２年５組（和田）　相互理解できる集団
　　不成功できる集団

（やりたいことに挑戦してみよう
挑戦したときの活動を振り返ろう
他人の不成功を褒めてあげよう）

第３学年努力目標

１．寛厳自在
　自分に厳しく、周囲に寛容さ「優しさ」を持ち接していく。
２．自分の評価は他人が決める
　人は「自己評価」に偏りがちである。一方で下される「他者評価」を視野に入れながら成長を促していきたい。
３．責任は己にある
　全てのことにおいて当事者意識をもって取り組む！
　他人が人生を切り開いてくれるわけではない！

クラス努力目標

３年１組（加納）　想いをカタチに
　どんな想いで取り組み生きるのか　支えてくれた人　自分の想い　全てをカタチに
３年２組（中村）　一言芳恩
　～ちょっとした声かけやアドバイスなどに対して、
　「自分のために言ってくださった」と感謝の心で物事を捉え行動をしていく～
３年３組（池上）　まわりを笑顔にさせる
３年４組（小豆澤）クラス全員の卒業と進路確定
３年５組（吉原）　一蓮托生　水滴石穿

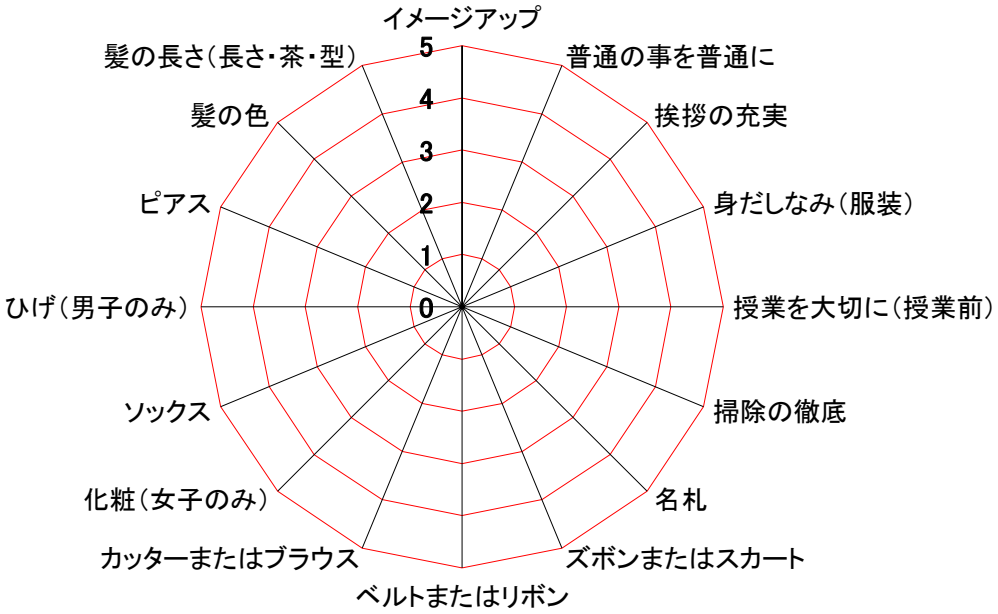
担任振り返りシート　（　　）年（　　）組　担任（　　）

クラス目標

	点検項目	１学期	２学期	３学期	年間
目標	学校目標				
	学年目標				
	クラス目標				
出欠	欠席				
	遅刻				
	早退				
	保健室利用				
	不登校傾向				
モラル	規範意識（ルール厳守等）				
	礼儀・挨拶				
	優しさ・親切・思いやり				
問題行動	処分関係				
	いじめ				
	盗難				
	服装検査				
	頭髪検査				
	化粧（女子のみ）				
	落ち着き度				
	退学・転学等				
学習	学習態度				
	基礎力養成（学び直し）				
	検定・資格				
	模試（進学・就職）				
	校内漢字テスト				
	朝読書				
帰属意識	和・絆				
	遠足（研修旅行）				
	球技大会				
	文化祭				
	体育祭				
環境	掃除				
	ゴミの分別				
	整理整頓				
その他	部活動（入部率）				
	生徒との信頼関係				
	保護者との信頼関係				

記入は５段階（５／優　４／良　３／普通　２／やや悪　１／悪　）でお願いします。

	記　　述　　欄
１学期	良かった点
	悪かった点
	その他（気づきがあれば書いてください）
２学期	良かった点
	悪かった点
	その他（気づきがあれば書いてください）
３学期	良かった点
	悪かった点
	その他（気づきがあれば書いてください）
年　間	良かった点
	悪かった点
	その他（気づきがあれば書いてください）

○年○組　生徒自己評価チェック（年間集計）					
	チェック項目	１学期 平均	２学期 平均	３学期 平均	年間平均
1	イメージアップ				
2	普通の事を普通に				
3	挨拶の充実				
4	身だしなみ（服装）				
5	授業を大切に（授業前）				
6	掃除の徹底				
7	名札				
8	ズボンまたはスカート				
9	ベルトまたはリボン				
10	カッターまたはブラウス				
11	化粧（女子のみ）				
12	ソックス				
13	ひげ（男子のみ）				
14	ピアス				
15	髪の色				
16	髪の長さ（長さ・茶・型）				
	集　計				

年間評価